

衆議院安全保障委員会ニュース

【第211回国会】令和5年4月18日（火）、第9回の委員会が開かれました。

1 国の安全保障に関する件

- ・ 林外務大臣、浜田防衛大臣、山田外務副大臣及び政府参考人に対し質疑を行いました。
（質疑者） 渡辺周君（立憲）、伊藤俊輔君（立憲）、新垣邦男君（立憲）、浅川義治君（維新）、三木圭恵君（維新）、斎藤アレックス君（国民）、赤嶺政賢君（共産）

（質疑者及び主な質疑事項）

渡辺周君（立憲）

- （1） 米国防省の機密情報流出
 - ア 米国防省から日本政府に対する説明又は日本政府からの問合せの有無及び我が国の機密情報が流出した可能性
 - イ 同盟国として米国に対して情報共有を求める必要性
- （2） ロシアによる北方領土での軍事演習
 - ア 漁業及び航行への影響の有無及び国際社会に対して訴えかける必要性
 - イ 縦割りの対応を排除する必要性
- （3） 陸自ヘリ（UH-60JA）の航跡消失
 - ア 事故を踏まえた同型機の運用の現状
 - イ 当該ヘリのスピードにおいて飛行中に空間識失調を起こし操縦ミスが起きる可能性
- （4） 2023（令和5）年4月13日の北朝鮮による弾道ミサイル発射
 - ア 自衛隊法第82条の3に基づく破壊措置命令の発出の有無
 - イ 我が国の領土内への着弾が想定された段階で瞬時に迎撃に必要な措置をとるべきであったとの考えに対する防衛省の見解
 - ウ 防衛大臣がミサイルの破壊措置を行う決断をできる態勢にあったことの当否
 - エ 緊急地震速報と同様に2つのルートより住民に情報を伝える必要性

伊藤俊輔君（立憲）

- （1） 無人偵察機グローバルホーク
 - ア 我が国における現在の運用状況
 - イ 3機目が未だに納入されていない理由及び当初の納入予定時期並びにこの未納入による常時監視体制への影響
 - ウ 韓国軍が配備した同機の不具合についての把握内容及び現在の運用状況
 - エ ドイツが本機の購入を中止した原因及び導入をめぐる現状
 - オ 自衛隊が購入した2機についての不具合の有無及び検査の実施状況並びに今後納入される3機目についての対策の必要性の有無
 - カ 購入費用が当初の見積りよりも高騰している理由並びに運用及び維持コストの削減の必要性
 - キ 本機が高コストであるとの認識の有無
 - ク 三沢基地に滞在する米国人技術者の生活費の負担状況及びコスト削減に向けた米国側への働きかけの内容並びに米国技術者の生活費が運用及び維持費に計上されていることの当否
 - ケ 2019年度末まで百里基地に配備されていた偵察機RF-4の運用部隊の人員数
 - コ 旧式のブロック30の方が我が国のニーズに合致しているとの従前の防衛省の認識に対する現在の浜田防衛大臣の見解
 - サ 高コストなグローバルホークを導入、運用及び維持するに当たりより丁寧な説明が必要との認識

に対する防衛省の見解

(2) 米軍航空機事故に関するガイドライン

ア ガイドラインの改正により事故に際しての米側の対応が改善される見通し

イ 米軍航空機事故に際して米側が日本側当局の規制線内への立入りを認めない場合にその理由が開示される可能性及び交渉過程で開示を求めた事実の有無

新垣邦男君（立憲）

(1) 沖縄の基地負担問題

ア 沖縄の基地負担について「自由で開かれたインド太平洋を守るための責任だ。負担ではない」と述べたエマニュエル駐日米大使発言についての浜田防衛大臣の見解

イ 米軍基地の存在を負担に感じている沖縄県民の認識を米側に伝えるための政府の取組

ウ 沖縄県民が言う基地負担には米軍基地だけでなく自衛隊基地の負担も含まれていることについての浜田防衛大臣の認識の有無

(2) 名護市辺野古沿岸でジュゴンの糞が見つかったことを受けてジュゴンの生息状況調査の拡充等を求めた沖縄県の要請に対する政府の回答状況及び回答を行う時期の目途

(3) 普天間飛行場代替施設

ア 同施設建設工事の進捗状況及び完工時期の目途

イ 完工には12～13年以上の年月を要するとの見方についての政府の見解

ウ 同施設の建設について再考する意思の有無

(4) 政府安全保障能力強化支援（OSA）の創設及び開発協力大綱の改定

ア OSA創設の理由

イ OSAの対象となる「同志国」の定義及び想定する国並びに「同盟国」との相違点

ウ 同志国の選定プロセス

エ 同志国が今後増加する可能性

オ 開発協力大綱改定案において、現大綱の基本方針で掲げている「非軍事的協力による平和と繁栄への貢献」から「非軍事的協力」との文言を削除した理由及び今回のOSA創設との関係

カ OSAについてもODAの大綱に相当する文書を作成する予定の有無

キ 防衛装備移転三原則の運用指針が見直された場合には新たな指針の下でOSAが実施されることの可否

浅川義治君（維新）

(1) 横浜ノース・ドッグ

ア 同施設における小型揚陸艇部隊の新編についての発表の内容

イ 米軍による接收後における瑞穂ふ頭の耐震性及び保全状況

(2) 米軍横須賀基地及び厚木基地における有機フッ素化合物（PFOS等）の流出

ア 地元自治体も含めた基地への立入調査の結果

イ 調査におけるPFOS等の濃度が基準値以下であることの可否

ウ 神奈川県と沖縄県とで基地への立入りに差異がある理由

(3) 富士山噴火への対策

ア 令和2年に内閣府が公表した火山灰等による被害の想定内容

イ 噴火時又は噴火が予測される場合の富士山周辺の駐屯地の対応

ウ 自衛隊が保有する車両、電子機器等の装備の火山灰対策の内容

エ 噴火が予測される事態における指揮所の場所

オ 専門家や気象庁との連携を含む今後の噴火対策についての浜田防衛大臣の所感

三木圭恵君（維新）

- (1) 能動的サイバー防御
 - ア 導入のための法改正の必要性についての政府の認識並びに法改正の計画及び予定
 - イ 法改正に当たっての検討課題
 - ウ 自衛隊のサイバー防衛隊の重要インフラ防護への活用に関する浜田防衛大臣の見解
- (2) 韓国軍による自衛隊機への火器管制レーダー照射問題
 - ア 韓国国防相が「レーダー照射はなかった」等と発言したとする韓国紙報道についての浜田防衛大臣の見解
 - イ 自衛隊の士気を低下させないためにも同問題の課題を解決する必要性
- (3) 軍民共用空港
 - ア 軍民共用空港に対する防衛政策上の観点からの見解
 - イ 自衛隊機と民間機の運用の分離についての検討の有無
 - ウ 両機を分離した方が安全性が高いとの考えについての防衛省の見解
 - エ 軍民共用空港を国際空港として使用することの危険性についての浜田防衛大臣の認識

斎藤アレックス君（国民）

- (1) 存立危機事態における反撃能力の行使
 - ア 存立危機事態における反撃能力行使の分かりやすい事例の提示についての検討状況
 - イ 分かりやすい事例を提示しないと国民の理解が広がらないのではないかと指摘に対する浜田防衛大臣の見解
 - ウ 存立危機事態における対応能力の検証を目的としたシミュレーションは行っていないとした4月13日の本委員会における浜田防衛大臣の答弁の真意
 - エ 安保三文書の作成過程において存立危機事態を想定したシミュレーションを行わなかった理由
- (2) ChatGPTのような生成系AIの利用
 - ア 生成系AIの利用上のリスクについての政府の認識
 - イ 情報漏洩のリスクへの政府の対応方針
 - ウ 国会答弁の作成における生成系AI活用の可能性についての政府の現状認識

赤嶺政賢君（共産）

敵基地攻撃能力と統合防空ミサイル防衛

- ア データリンクの概要
- イ データリンクによる情報共有が可能な自衛隊及び在日米軍の装備品
- ウ F-35戦闘機及び無人偵察機グローバルホークのデータリンク機能の有無
- エ 自衛隊と在日米軍とのデータリンクによる情報共有の実績
- オ 共同交戦能力（CEC）の概要
- カ 自衛隊の装備品におけるCECの導入状況及び今後の導入予定
- キ 早期警戒機E-2DにCECを付与する予定の有無
- ク 自衛隊と在日米軍とのCECによる情報共有の実績
- ケ ミサイル防衛においては日米共同で対処するという政府見解の変更の有無
- コ 今後は敵基地攻撃も日米共同で実施することになるとの認識の正否
- サ 日米間の連携の強化を踏まえると、我が国の統合防空ミサイル防衛と米国のIAMDは全く別物であるとする政府の答弁は事実に反するとの指摘に対する防衛省の見解
- シ 日米の指揮系統が別々であれば、瞬時の判断を要するミサイル攻撃への対処などできないのでは

ないかとの指摘に対する防衛省の見解